



1996～1997年度RIテーマ

築け未来を
行動力と先見の眼で

青い空 緑の山と風
黄色のうねりは
人類の理想 文化を表わす。
それらが混然一体調和して
ロータリーの理想に向って
昂って行く姿を示している。

Tokyo
Green
Rotary Club

クラブの標語 “奉仕の実践”

…行動する多摩グリーン…

国際ロータリー第2750地区

東京多摩グリーンロータリー・クラブ

No.314・315 7-38
1997.4.30 発行

Weekly Report

第315回例会報告 (4/23)

(1996年～1997年度第40回例会)

司会 SAA委員会 小林 和夫

◎点 鐘 会 長 遠藤 二郎

◎ロータリーソング「それでこそロータリー」

ソングリーダー 吉沢 洋景

◎お客様紹介 会 長 遠藤 二郎

林 彰一様 (東京多摩RC)

西尾 正誼様 (東京多摩RC)

榎本 隆乗様 (東京多摩RC)

布施 守敏様 (住宅都市整備公団南多摩開発局局長)

◎会務報告 会 長 遠藤 二郎

4/12、4/13地区大会の参加ありがとうございました。当クラブの参加者は2日間述べ34名でした。各種委員会の開催、決議事項の報告、地区活動の現況等、年度の総括的報告がされました。

後半のフォーラムでは他地区ガバナーがパネラーとして参加しての、大変内容のあるものでした。

2日目の竹村健一氏の記念講演も内容が濃く満足できるものでした。この時間に大半の会員が帰ってしまった事が残念に思いました。2日間通して参加されることをお勧めします。

地区大会が終わると本年度はもう終りという気分になるわけですが、まだ2ヶ月もあるわけですから各委員とも、活動計画の実施項目の完了目指して有効に使っていただきたいと思います。

◎幹事報告 幹事 須藤 起雄

①各委員会の活動計画の報告書がまだ出されていないとこ

第314回例会報告 (4/16)

(1996年～1997年度第39回例会)

4月12日13日地区大会に振替

会員総数 57名

出席義務者数 31名

出席者数 31名 欠席者数 26名

本日出席率 56.14 % (32/57)

4/9 訂正出席率 91.23% (52/57)

4/2 最終訂正出席率 87.72% (50/57)

欠席者 足立 潤三郎、萩生田 茂夫、長谷川 明宏、
平野 行廣、飯島 裕美、猪股 末男、小城 章員、
森田 舞子、村上 久、中山 順一郎、根本 泰守、
佐伯 和廣、城倉 正博、杉山 英巳、田畑 博、
高野 範城、戸田 昭寿、内田 茂男、山崎 光一、
横倉 舜三、横倉 譲、宿院 利幸、相澤 希一、
桧垣 昭、小形 勝子、宇智田 和秀

マークアップ

村上 久 4/10 調布むらさきRC

田島 真由美 4/11 町田RC

東京多摩グリーンロータリー・クラブ

会 長：遠藤 二郎 副委員長：田畑 博
幹 事：須藤 起雄 委 員：大松誠二・伊藤英也・村上久
会報委員長：小坂 一郎 杉野志保子・山崎光一

例会場 京王プラザホテル多摩 (たまつばき)

事務局：東京都多摩市落合1-43
京王プラザホテル多摩 561号
TEL 0423-72-6463/FAX 0423-72-6491

例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30

- ろがあります。明日中に提出して頂きたいと思います。
- ②GSチーム帰国報告が5/31日に行われる案内が来ております。
- ③小野なおみさんのアメリカの現況報告が各テーブルにおいてあります。
- ④例会の変更があります。東京多摩RC、東京狹江多摩川RC、東京西RC、MUは問い合わせて下さい。
- ⑤ロータリー財団の据え置きクレジットの説明及び申込みの説明。

◎次年度会長報告 会長エレクト 吉沢 洋景
 本日のクラブ協議会の時間変更のお知らせ。
 午後6時30分より野村証券の会議室で行ないます。

委員会報告

◎ニコニコBOX 親睦委員会 菊池 敏
 西尾 正誼…この頃年を取りまして、早起きになってしまったのですが、今朝はそのおかげで、5時30分に目ざめ、テレビのスイッチを入れましたら、ペルー大使館の人質解放作戦を生中継で見られ、びっくりしました。大きな犠牲も出ず、日本人、人質は全員解放され、心から良かったと思っております。

遠藤 二郎…お客様ようこそ。

菊池 敏…お久しぶりです。

杉山 英巳…ペルー大使館人質事件の解決を慶賀して。

杉野 志保子…息子、娘二人とも国試に合格しましたので。

大松 誠二…多摩クラブの西尾様、林様ようこそ。

本日合計 金12,000円 (累計1,084,805円)

◎出席報告 出席委員会 伊澤 ケイ子
 会員総数 57名
 出席義務者数 57名
 出席者数 46名 欠席者数 11名
 本日出席率 84.21 % (48/57)

4/12.13 訂正出席率	63.16%	(36/57)
4/9 最終訂正出席率	91.23%	(52/57)

欠席者 足立 潤三郎、伊神 稔、北村 幸彦、
 小坂 一郎、森田 舞子、中山 恒武、城倉 正博、
 高野 範城、戸田 昭寿、横倉 譲、相沢 希一
 メークアップ
 小城 章員 4/18 八王子西RC
 根本 泰守 4/22 多摩RC
 高野 範城 4/21 麴町RC
 4/22 多摩RC
 宇智田和秀 4/21 杉並RC

◎米山奨学事業委員会 委員長 平野 行廣
 米山委員会より最後のお願いにまいりました。
 70%達成できましたが目標まであと少し足りません。皆様の協力をお願いします。

◎青少年奉仕委員会 委員長 関岡 俊二
 第2回新世代会議の報告 4/9
 (詳細は各人に報告書を配布してありますので参照して下さい。)

◎卓 話 「多摩ニュータウン30周年に際して」
 住宅都市整備公団南多摩開発局局長 布施 守敏様
 「ご紹介いただきました布施です。30年の間町づくりをやってまいりました。主に整理区画です。豊ヶ丘に8年程住んでましたが、住民としての方が長かった様です。ニュータウンの印象は道路、公園等の基盤が骨太であると思います。ニュータウンが30年を迎えてこれからどうするか？なにが必要か、何を考えればよいのか？等々ありますが、多摩ニュータウンのうつり変りを今日は話したいと思います。それではニュータウンの30年前はどうだったのか、それから話をします。

一番の問題は東京に人口が集中しすぎたことです。これに対する対応がテーマになりました。昭和35年から昭和50年の15年間で1都3県(千葉、埼玉、神奈川)で60万人の増。残り15年で32万人の増ですからこの昭和35年からの15年はものすごい増加でした。それで多摩ニュータウンはこの真ただ中に入ってた訳です。住宅難の解消が出てきた訳です。その当時、東京の木賃アパートは水準が低かったです。カベ1枚で赤ちゃんが生まれると泣き声が隣に聞こえるので、アパートを出て行かなければならない状況でした。

その時代に公団は基盤整備がしっかりしていて水準の高い住宅が出来たと言う事で多摩ニュータウンはそう言う意味で評価は充分にあったと思われます。それではちょっと戦前、戦後の話をふたつ程します。東急沿線の町づくりで、渋澤栄一さんは情熱をもやしていました。

第1次大戦後、やはり東京は人口が増え山の手線の外へ出る状況でした。その時に渋澤さんは池上線とか大井町線とかに目をつけて町づくりを始めた。その当時イギリスのハワードさんが田園都市を構想されており、渋澤さんも実業界から引退され都づくりに専念されました。その思想が東急の沿線に全部残されておりますが、田園調布は息子さんにプランニングをまかされた。大正10年9月に大地震がありました、その直前の8月に売り出され直後に震災があり、この田園都市は非常に安全な町であると言われました。その頃には町づくりには必要であるものがそろっていました。学校、医者、駐在所等、基盤が整備されたいい町であると評判が立ちました。

後藤さんですが今日あの246号線に平行して新線をつくりました。これは東京がまだ混沌としていた昭和28年に構想をつくったと聞いておりますが、まだ公団も出来ておりません。まあこう言う偉大な実業家が大きな町づくりをして行く…と言うことです。

情熱を持った人が町づくりをするんだと言う印象をうけます。多摩ニュータウンにもどりますが、そういう意味では、いい町をつくらうと言う情熱が全員にありました。多摩ニュータウンの大きな理論として近隣住居を取り入れています。21の住居に分かれていますが、一つ一つ名前がついております。これはアメリカのフェリーさんの理想で郊外にコミュニティを求める理念でまたたく間に世界に広がりました。21の住区どこでも同じ生活が出来る。小学校があり、中学校が2つあり、その上に駅前センターとか大学とかをつくり、その中で機能すると言うことです。多摩ニュータウンでの第一の印象はと皆様に聞いて見ると、「緑」が多いと言うことです。これも苦労した所ですが、植物は土が良くないと育たないと言うことで古い木もそのまま公園に移したりして植物の多い緑の多い町づくりにしました。全国に先がけて作ったよい例です。基盤作りはこう言う所にあるのではないかと。また住宅はだんだんと広くなりりっぱなものが出来てきます。タウンハウス諏訪あたりから良くなり、年々良くなっています。また小建住宅も多くなって

ます。暮らしを変えたものの中には自家用車が多くなり問題です。大きな会社が出来たりスーパーが出来たりして町が変わってきました。昭和48～49年あたりからコンビニが多くなりこれも町が変わってきました。医療システムも変り町医者から大病院集中に変わってきました。そう言うものが近隣住居システムを考え直す時期にきているのではないかと。住民は何を望んでいるのか。洗い直す時期が来ている。省エネの問題、太陽エネルギーの問題、住民参加の住宅作り、技術の開発等、皆んなで考えていく問題です。それから地震対策もそうです。阪神大震災も都市活動が活発になった時間帯だともっと大きな被害が出ました。それは想像も出来ない程の災害になったでしょう。そういう意味では多摩ニュータウンは安全であると言えるでしょう。皆さんに渡しました地図の中で黒くぬりつぶした聖ヶ丘住宅、永山の集合住宅等は東京の中心ですと真黒になる所ですが、ゆとりがあり大きいです。そう言う風に見て頂ければ安全だと分かります。密度が高いと言う事が問題なのです。自動車がそうです。高速の4号線永福あたりで1日10万台が走ります。都心の交差点でも1日1万台。車でうめつくされています。密度が高くなればなる程危ない町ができます。町が望んでいるのはコミュニティの輪です。「ふれあい」「つきあい」「助け合い」です。オレには関係ない人もいますが、住民はそれを望んでいます。近隣センターでふれあいの店が集まること。全員がコミュニティの共通観を持つこと。同じ価値観を持つこと。そう言うことが町づくりに大事なことで、その中で30年のニュータウンを成熟した町づくりをするために何をすればいいか、それを11月までに考えて行きたいと思いますので、皆様にも協力をお願いします。

もう一つ夢のまた夢の話ですが21世紀には何が変わるか？と言うと今の化石燃料からのエネルギー革命です。石油は無限でないで核エネルギーに変わってくるのではないかと。また自動車の次にくるものは何か、究極の乗物であるのか。飛行機、ホバークラフト、色々なものがありますが、これも夢をもって情熱をもって見て行きたいと思います。

多摩ニュータウンを情熱を持って育ててゆきたいと思いますのでよろしくお願いします。